



新潟県
(医) 尽誠会
新栄町歯科医院

佐久間 利喜
先生

今回のアイテム

オブチコアフロー／フロアブルレジン

操作性・色調再現性・経済性の三拍子揃ったフロアブルレジン

近年、審美性の高いダイレクトボンディングに於いて、レイヤリングテクニックを応用するにあたり、フロアブルレジンの選択に悩んでいる臨床医も多いと思う。

筆者もその一人で各社のフロアブルレジンを色々と使用し、トライ＆エラーを繰り返しながら現在、「オブチコアフロー」を第一選択のフロアブルレジンに使用している。

以下に筆者の選択理由を述べたい。

1. 操作性

高い流動性と適度な粘着性を併せ持ち、注入速度を抑えながら充填することにより、気泡の混入も避けることができる。

硬化時間も他社と同等か長い感じもあり、

操作性が良好である。

2. 色調再現性

収縮ギャップ防止のため、ファウンダーションレイヤーを行う。その際、窩底部の象牙質の色を遮蔽し、エナメル質の色調に合わせ易いよう、A2、A3、A3.5、B2、C3、I、WO（ホワイトオペーク）とあり、WOをライナーとして、その上に別色のフロアブルレジンを組み合わせることで、アマルガム等の濃色の透過やIV級窩洞の光の透過性を遮蔽して明度を下げずにレイヤリングできる。

3. 経済性

当クリニックのコンポジットレジン修復の99%が保険診療である。少ない種類の材料

で審美性の高い処置を短時間に行うことは患者さんの信頼を得るのにとっても有効である。

オブチコアフローはそのコストパフォーマンスも高く、費用対効果の面でも良い結果を出している。

最後に筆者がダイレクトボンディングを日常臨床に取り入れ、活用しているのは、Kerr主催ダイレクトボンディングセミナーの青島徹児先生のコース、秋本尚武先生のコースに参加させて頂き、疑問点を解消できたからであり、Kerrにはとても感謝している。

【臨床ケース1】



1. 20代女性。外傷による歯冠2/3の破折、幸運にも歯髄覆罩処置により歯髄の温存ができたので抜髄せず生活歯のままダイレクトボンディング。



2. 修復面積が大きいため、一度外形を作り、それをカットバックした後、シリコンパテを使用しバックウォールの形成、形態の復元を行った。



3. オブチコアフローのA2をベースとして使用。



4. 形態修正後、オブチワンステップポリッシャーと、オブチシャイン、オクルーブラシによる研磨。

【臨床ケース2】



1. 10代男性。上顎第一大臼歯機能咬頭に深度の象歯質蝕蝕。可及的にエナメル質を保存した。オブチコアフローのA3をベースに2層のレイヤリングにて修復。



2. ラバーダム防湿。クランプはカーのソフトクランプを使用。メタルクランプと比較して弾性があり、締め付け感が少なく患歯に負担をかけない。



3. オブチコアフローを窩底部に流し込んだ後、プレミスのクリアにて積層充填。



4. 咬合調整、研磨。